

1. 仕事(職場)について教えてください

私は現在、総務部のシステム企画調整室という部署に配属されています。「システム」という単語から「プログラミングをやったりするの?」「何か難しそう」というイメージを持たれるかもしれませんが、主な業務は職員が利用するネットワーク機器(パソコンやプリンタ)の障害対応や、税関手続きに使われている「NACCS(輸出入・港湾関連情報システム)」というシステムの安定稼働、情報漏えい等に係るセキュリティ対策といったものになります。難しいことは全然ありません!



2. 仕事の中で印象に残っていることは何ですか?

農学部出身で機械に疎い私ですが、この職場に来て「こんなことができるんだ!」と思った中の一つに「端末の遠隔操作」があります。機器の障害対応ではメーカーの保守員を手配することになりますが、手配するにしても「どのようなエラーが表示されているか、想定される原因は何か」といった切り分け作業は職員で行う必要があります。電話だけでは事象の把握が難しい場合も、端末の遠隔操作によってエラー表示等の確認・事象の切り分けができるのでとても便利です。

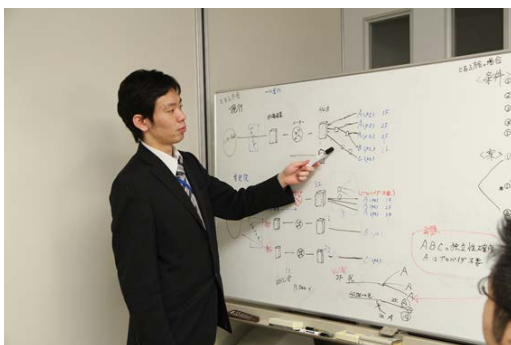
3. 採用研修について教えてください

採用研修は採用後2カ月半(一般職大卒の場合)の間、千葉県での研修施設にて行われ、全国の税関の同期が集まり切磋琢磨します。税関業務に必要な語学や法律等はもちろんのことですが、社会人として必要な接遇・マナーも再確認できます。私の場合は大学時代の不規則な生活リズムを矯正することができました。2カ月半という長い期間ですが、イベント行事や同好会といった同期と交流できる時間も充実していますので、多くのことを学びながら立派な社会人になるための一歩を踏み出してもらえればと思います。

4. 税関の魅力、やりがいは何ですか?

税関といえば空港で旅客の荷物検査をしている仕事、というイメージを持たれる方が大半だと思います。何とんでもなくてもそこで社会悪物品の摘発に携わることができるということが税関の魅力だと思います。また、輸出入貨物の通関など、日本の海外との物流の一端を担っており、その業務内容のスケールの大きさから如何にやりがいのある仕事であるかということが分かると思います。

5. 就職活動中のみなさんへのメッセージ



現在就職活動中の皆さんにとっては、税関は数ある就職先の選択肢の一つに過ぎないかもしれませんが、私の場合も分析業務に興味があったからという些細なきっかけから、税関や説明会に足を運び色々話を聞きました。自分なんて視野が狭かったんだ!と思知らされました。自分の専攻分野を活かせるだけでなく、語学や取締技法、そして私が現在従事しているIT系の知識など、自分のスキルを多種多様な業務によって高め、自分の可能性を広げていくことができます。まずは官庁訪問や説明会に足を運んでみることで、税関が皆さんの「第一希望」になることを期待しています。